

空を飛ばニシキゴイ

毎年11月3日に広島県錦鯉品評会が開催されています。この品評会は広島県内の錦鯉生産者が一堂に集まり、その生産技術を競うもので、全国でもトップクラスのニシキゴイが集まる品評会であることから、海外からも多くのバイヤーが訪れます。



広島県は新潟県に次ぐニシキゴイの生産県です。そして広島県内で生産されたニシキゴイの大半が海外へ輸出されています。

広島産のニシキゴイが海外へ輸出され始めたのは昭和40年頃からで、広島市西区にある養鯉業者がアメリカのハワイ州ホノルル市へ寄贈したのが最初です。営利目的での輸出が盛んになりはじめたのは平成10年頃からで、その後年々輸出件数は増加し、今では外貨を獲得できる重要な農林水産物となっています。

生きている動物の国際取引においては、輸出する国の公的機関が計画的に疾病監視を行い、輸出の際に無病であることを証明しなければなりません。この証明書を衛生証明書と呼んでいます。

当センターにおける衛生証明書の発行件数から、広島県からのニシキゴイの輸出状況を知ることができます。

図1は広島県における平成13年以降の衛生証明書の発行件数を集計したものです。なお香港のような衛生証明書を必要としない国への輸出件数は含まれていません。また、平成24年度の数値は2月末における数値です。

平成13年に年間20件の発行件数だったものが平成18年には90件に増加し、平成19年度に少し減ったものの再び増加し始め、平成22年度には134件を発行しました。平成23年度はやや減少しましたが、平成24年度は過去最高の発行ペースとなっており、2月末の段

階で既に113件となっています。

国別に見るとインドネシアを代表とする東南アジア方面への輸出が全体の7割近くを占めています。

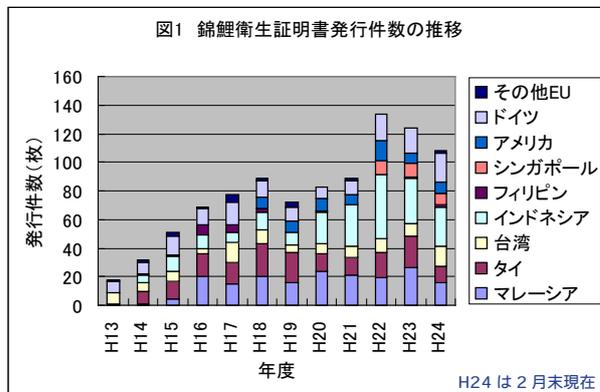
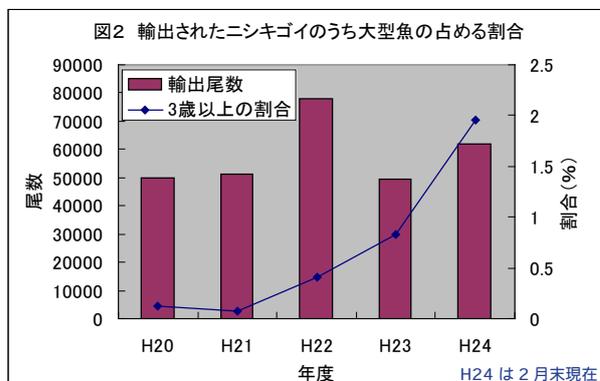


図2は衛生証明書を発行した事例における輸出尾数を整理したものです。平成20年度以降の資料しかありませんが、やはり平成22年度が最高で8万尾近いニシキゴイが輸出されました。平成23年度には輸出尾数は減っています。一方で輸出尾数のうち大型魚の占める割合は年々増えており、平成21年度までは0.1%程度だったものが平成22年度に0.4%、平成23年度に0.8%、平成24年度には2%と急増しています。



大型魚の輸出増加の背景には、ここ数年海外でも盛んにニシキゴイ品評会が開催されるようになったことがあると思われます。

これまでの海外向けには安価な当歳魚の輸出がメインでしたが、今後は大型の高級なニシキゴイの需要が増してくることが期待されます。

